

台風19号の接近・通過による農作物等の被害防止に向けた技術対策について

県南農林事務所経営・普及部門

台風19号は強い勢力を保った状態で、今週末ごろには関東地方を通過する恐れもあります。この影響で、県内の広い範囲で、激しい雨と強風が予想されます。県内では、9月9日に本県を通過した台風第15号により傷んだ農業用施設や農作物も多く、施設の補強などの対応の徹底が必要な状況にあります。

主な品目について下記のとおりとりまとめましたので参考に願います。

なお、人命第一の観点から、圃場の見回り等については、気象情報を十分確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないこと。また、大雨が治まった場合の見回りについても、増水した水路その他危険な場所に近づかず、足場等、圃場周辺の安全に十分注意し、転落、滑落事故など二次災害の防止を徹底し慎重に行うようお願いいたします。

I 施設園芸

1 野菜

(事前対策)

- (1) ハウス周囲に排水溝を設けて施設内への水の侵入を防ぐ。
- (2) ハウスバンドや被覆フィルムの取り付け金具等に緩みがないか確認する。
- (3) 被覆資材の破損がある場合は、テープ等で補修しておく。
- (4) ハウスの周辺を清掃し、強風で飛散する資材等が無いようにする。
- (5) 出入り口に隙間のあるパイプハウスは、ビニルで覆い、密閉度を増す。
- (6) 燃料タンクは、転倒しないように安定性の確認を行う。
- (7) 換気扇等のあるハウスは、密閉して運転し、施設内に負圧をかけておく。
- (8) 妻面方向への倒壊防止や、強風防止のため筋交いを入れ、補強する。

既存ハウスの補強対策

○筋交い

パイプハウスの妻面方向への倒壊防止や、強風時の横揺れ防止のためには筋交い(図1)が有効です。両妻面だけでなく、ハウス中央部にも筋交いを入れることで強度が向上します。(概ね20mごと)

長さ5mの直管パイプ1.5本分を妻面より数m先の地中に30~40cm程度押し込み、筋交いパイプとアーチパイプが交差しているすべての個所を固定します。入れていない場合に比べ30%程度強度が増します。



図1 筋交い

○沈下防止パイプとらせん杭（またはスクリー杭）
上から押し付けられる圧力に対し、パイプが沈下しないようになり、強風や風圧による持ち上げにも強くなります（図2）。地盤が弱い場合（砂地等）にはスクリー杭を使用し、沈下防止パイプ部分を地中に埋めるなど別途対策が必要です。

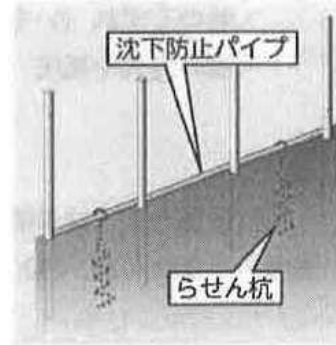


図2 沈下防止パイプとらせん杭

(事後対策)

- (1) 施設内に雨水が浸水した場合は、直ちにハウス内外の排水を図り、換気を行い、湿度の低下に努める。
- (2) 浸水により作物の根が弱るので、液肥の葉面散布を行い草勢の回復を図る。
- (3) 軟弱野菜類では、台風通過後の急激な高温による萎凋、傷みを軽減するため、遮光ネットにより日射を抑制する。
- (4) 病害虫の発生が懸念される場合は、必要に応じて薬剤防除を実施する。

2 花 き

(事前対策)

- (1) ハウス周囲に排水溝を整備し、雨水の浸入を防ぐ。
- (2) 育苗箱など移動可能なものは、納屋等の風の当たらないところへ移す。
- (3) ハウスの支柱やネットを張り直し、強度を高めておく。
- (4) ハウスの天井や側面の被覆資材に破れや隙間がないかを確認し、修復する。
- (5) 台風通過前にハウス内部を密閉し、被覆資材を施設本体に密着させてばたつきを防ぐ。

(事後対策)

- (1) 台風通過後は、速やかに開口部を開放し、換気を行う。
- (2) 強い日射による萎れが予想される場合は寒冷紗を被覆する。
- (3) 薬剤散布にあたっては薬害に注意し、高温、強日射下での作業は控える。

II 露地野菜

(1) 全般

(事前対策)

- ① 圃場周囲の排水路を確保する。
- ② 果菜類では、不要な葉や茎を摘除して風圧を小さくし、収穫できる実はすべて収穫する。

(事後対策)

- ① 圃場が浸水、冠水した場合は明きよを掘るか、ポンプによる汲み上げなどできるだけ早期の排水に努めるとともに、マルチ栽培ではマルチをめくるなど、圃場の乾燥を

促す。

- ② 茎葉に付着した泥をきれいな水で洗い流し、損傷した茎葉を取り除く。
- ③ 圃場の乾き具合を見て早めに中耕，培土を行い，発根を促し草勢の回復を図る。
- ④ 中耕・培土の際，草勢を見て追肥や液肥の葉面散布を行う。
- ⑤ 細菌病等の発生が懸念されるため，防除対策に努める。

(2) ナス（茎葉，果実の損傷の場合）

- ① キズ果，変形果を除去する。
- ② 草勢の回復を図るため，収穫は少し早めに行う。
- ③ 褐色腐敗病，青枯病などの発生が懸念されるので，排水対策に努める。

(3) ネギ（葉身の折れ曲がり，一部倒伏の場合）

- ① ネギは湿害を受けやすいので，圃場が浸水，冠水した場合は直ちに明きよを掘り排水に努める。
- ② 倒伏した場合は，直ちに株起こしを行う。
- ③ 葉身が損傷した場合は，土寄せは，すぐに実施せず，新葉の伸びを確認してから行う。
- ④ 軟腐病などの発生が懸念されるので，防除対策に努める。

Ⅲ 露地花き

(事前対策)

- (1) ほ場の周囲に排水溝を設置し，排水が速やかに行えるようにしておく。
- (2) 強風により，ネットのずれ，支柱が倒れて茎曲がり等が発生するので，事前に支柱の点検，補強及びネット上げをしておく。
- (3) 雨水の浸入や雨漏りによるハウス内の滞水は，根腐れや土壌病害発生の原因となるので，強制排水を行う。
- (4) ハウスの天井や側面の被覆資材に破れや隙間がないかを確認し，破損がある場合は，修復する。

(事後対策)

(1) 露地キク

- ① 倒伏したものは，速やかに起こし，茎の曲がりを極力抑えるようにする。
- ② 折損した葉，茎は，品質を悪化させないために整理し，下葉についた泥などはきれいな水で洗い流す。
- ③ 葉，茎の損傷により病害の発生が懸念されるので，防除対策に努める。
- ④ キクは浅根性で根腐れを受けやすいため，速やかに排水を行う。
- ⑤ 草勢回復のために，液肥の葉面散布を行う。
- ⑥ 出荷するものについては，選別を徹底する。

(2) グラジオラス

- ① 倒伏したものは，速やかに起こし，茎の曲がりを極力抑えるようにする。
- ② 浸水を受けたほ場や水田転換畑などは根腐れによる葉先枯れや球根腐敗病，首腐

病などの病害が発生しやすいので、速やかに排水を行う。

- ③ 葉、茎の損傷により病害の発生が懸念されるので、防除対策に努める。
- ④ 出荷するものについては、選別を徹底する。

IV 果 樹

1 ナシ、カキ、リンゴ、クリ、ブドウ

(事前対策)

- (1) 支柱やネットの強度を確認し、弱い部分は補強する。
- (2) 棚栽培では、棚面の随所に支柱や針金で下方への誘引を行い、上下動を抑える。
- (3) 立木栽培では、しっかりとした支柱を立てて結束し、枝折れや倒伏を防止する。
- (4) ビニルハウスでは、ビニルの緩みや破れ、隙間がないか確認し、破損等あるときは修復する。
- (5) 簡易被覆ハウス（トンネル）で、強風にあおられるおそれがあるときは、ビニルの除去などを検討する。

(事後対策)

- (1) 浸水や滞水したほ場は明きょを掘り、すみやかな排水に努める。
- (2) 商品価値のない落下した果実は園外に持ち出すなどして処理する。
- (3) 樹の損傷部位(折損)をせん定し、切り口を塗布剤で保護する。
- (4) カキ、リンゴ、クリなど立木栽培で倒伏した樹は出来るだけ早く引き起こし、根元がぐらつかないように支柱で固定する。
- (5) 枝葉の損傷などによって、病害の発生が懸念されるので、防除対策に努める。

V 畜 産

1 飼料作物

- (1) ほ場が浸水、滞水したら、明きょを掘るか、ポンプによる排水に努める。

2 畜舎等施設

- (1) 施設の破損状況を点検し、修復する。
- (2) ふん尿が飼料に混ざらないように注意する。
- (3) 生乳処理室などに風雨が吹き込んだ場合は、器具機材の消毒を行う。
- (4) 浸水した畜舎は速やかに排水対策を講じ、舎内の乾燥に努める。畜舎の滞水が引き次第水洗し、消毒剤や石灰の散布及び塗布を行う。
- (5) ふん尿貯留施設、堆肥舎等から「れき汁」が流れ出ないように、側溝の設置や副資材の追加を行う。

VI 普通作

1 水稻

(事前対策)

- (1) 排水路の詰まり等がないか点検する。
- (2) 大雨の前に十分減水したうえで、一定量以上の水かさになると落水する対策を講じる。

(事後対策)

- (1) 冠水した圃場では、一刻も早く退水措置を講じ、稲体を水面上に露出させる（排水が不十分でも葉先が水面に出ることで被害が軽減される）。
- (2) 水田に入った水は速やかに排水し、その後は間断かんがいを励行する。
- (3) 冠水後は、いもち病、白葉枯病などが発生しやすいので、防除対策に努める。

2 大豆・ソバ

(事前対策)

- (1) 圃場の明きょ・排水溝を点検するとともに、排水路の清掃・補修を行い、速やかに排水されるようにする。

(事後対策)

- (1) 速やかな排水に努める。特に水田に作付けした場合は畦畔を切るなどして排水に努める。
- (2) 大豆では圃場の浸水により茎疫病等の発生が懸念されるため、防除対策に努める。